

「地域住民の関心」の高め方や 若者世代の参画を含めた地域全体を 巻き込むための工夫

佐久市臼田地区活性化共同企業体
代表法人：株式会社みんなのまちづくり

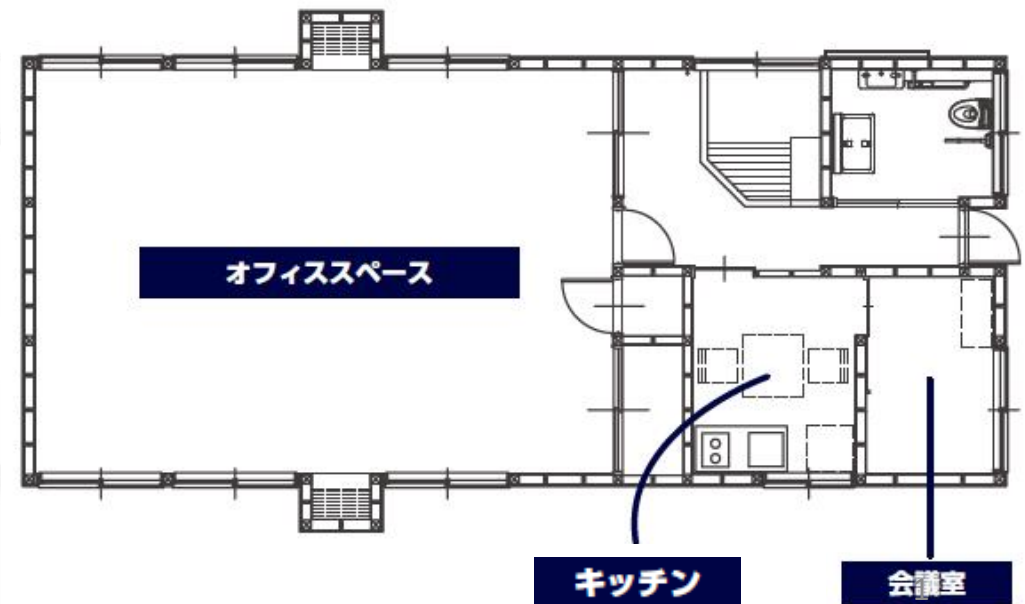
(1) コンセプト

シェアオフィス型地域交流拠点 shoku_ba

働く、学ぶという機能を核とした交流の場とする。

リモートワークをするため、ちょっと話したいといった理由で利用されている。

テーマ	コンテンツ
仕事	登記、打ち合わせ、仕事紹介
人材育成	自習室、ホシノマチアカデミー
交流	食事、お酒



(2) 運営方針

住民主体

実施事業は入居者・地域からのニーズに基づいて行う。

利用者負担

運営は入居者が主体性を持って行うことを基本とする。
必要に応じて利用料を徴収することで持続可能な運営を行う。

仕事化

実施内容については、サービスとして提供するのではなく、可能なものは入居者が稼ぐ機会として仕事化を図る。
その他、お金を稼ぐための仕事についても、地域の求人情報などを入手することで、入居者が希望する仕事の情報を提供する。

運営にあたっての考え方

移住者をお客さんにしない

スタッフがコンシェルジュにならない

地域は地域の人たちが担っている。

そのため、サービスの受け手になると、地域との温度差が出てしまう。

また、サービスの担い手になることこそが、

地域で活動することの面白さだと位置づけている。

常駐スタッフの役割



(1) 運営方針

最低限のサービス

入居者が主体的に活動を行えるように過度なサービスは行わない。
そうすることで、認知症予防、介護予防につなげる。

ホシノマチ会議

適切な情報開示を行うとともに、定期的にホシノマチ会議（入居者を中心とした交流会）を行う。入居者の意見を運営に反映し、入居者の満足度の高い運営を目指す。

(2) 常駐スタッフの主な役割

安否確認・ 生活相談

サ高住スタッフとして定められているサービスに加えて、警備会社と連携し、緊急通報による駆け付け対応をできるようにする。

シェアオフィスの 総合受付

代表電話を受けたり、荷物の受け取りなどオフィスで求められる機能を担う。また、IT面などのサポートも必要に応じて行うことで、入居者の活動の幅を広げるとともに、事業協同組合等と連携し、仕事の紹介等のサポートを行う。

地域連携 サポート

下越団地の住民・自治会との関係性構築のサポートを行うとともに、入居者と地域をつなぐ役割を担い、仕事やボランティアの紹介を行い、活躍できる場を見つけるサポートを行う。

医療・福祉 連携

基本的に自ら医療・介護サービスは提供せず、地域の事業者を利用する。佐久総合病院、雨宮病院を中心とした医療機関や介護事業所、地域包括支援センターと連携を行う。将来的に人材確保が困難等の理由で地域の事業者で担えなくなった場合は自主運営も検討する。

多世代交流 サポート

公共施設や近隣中学校児童館とのイベントの共有を行い、交流がうまれる環境をつくる。佐久大学、佐久総合病院看護専門学校等のインターンの受け入れや佐久平総合技術高校の農産物販売など、学生が拠点に来る環境をつくるように努める。

ホシノマチアルムナイ

1 背景

ホシノマチ団地は移住者向けの入門住宅としての機能を果たしている。

そのため、1年程度で転居する家庭も多いため、毎年数人の移住者がいる状態となっている。

かつ、退去者の多くは佐久市内への転居をしており、退去後も地域とのつながりを持ち続ける人が多い。

2 目的

ホシノマチ団地のコンセプトに共感をした人たちで同時期に入居した人だけでなく、異なる時期に入居した人も含めたコミュニティを作ること、新たな交流の場を設ける。

入居者が退去後の地域活動のイメージを持てるような機会を提供する。

ホシノマチ団地や地域での経験やその後の経験を共有することで、好きなことを仕事にしていく。モチベーションの向上や取り組みでの相互支援ができる環境を提供する。

コモンシティ星田自治会・ひとえん ～コモンシティ星田(大阪府交野市)～

- 地域の生活拠点である商業施設の遊休ホールの利活用に向けた検討を実施
- 全戸1,600世帯を対象に困りごとや地域に求めるもの等についてアンケート調査を実施
 - 試行的イベントを開催し、関与した若手と地域の評価を確認
例) 10日間連続開催のセミナー、WS、マルシェなど
 - シンポジウムの開催を通じ、地域住民の関心や機運醸成を図る
テーマ) 「まちにリビングをつくろう」
- 自治会総会で3年間の実証試行が承認、令和8年度にNPO法人の設立を目指す
- 持続可能な組織づくりに向け、若手が参加したくなる役割、動機を設計
- 意向ヒアリングやイベントの結果も踏まえ、
期間や役割を限定しながら、小さな関わりから取組に参画できる仕組みを検討
(企画運営、SNS発信、場所の管理など)



取組みの工夫・成果と今後の展開

集客性と利便性を当初からクリア

居場所のポテンシャル

【建物】有名な建築家による設計

【拠点】地域住民の生活動線上の拠点になりやすい立地
(商業施設の2階 285㎡)

【地域住民の評価】

- ☞ 広くて明るく開放的
- ☞ 広い駐車場がある
- ☞ 場所が分かりやすい



取組みの工夫・成果

【活動を見える化】

- ☞ 活動のポイント毎に情報発信(全戸)
 - ・アンケートの調査/報告、
 - ・試行イベントの開催案内
 - ・シンポジウムの開催案内
 - ・活用検討のまとめ(概要版・全体版)

【試行イベント】

- ☞ 多様な催しを10日間連続で行うことでスケール感を持たせ、多世代が興味関心を持てるようにした。最後にマルシェ

【団体・事業者等のヒアリング】26組

- ☞ 地域に根ざした小規模プレーヤーの利用ニーズが多く、顔の見える関係を期待する声が多かった

【自治会総会】

- ☞ ホールの活用について可決できたものの、運営主体・体制の具体化や採算性の確保は今後の検討課題である

今後の展開

【運営ボランティアを募集】

- ☞ 運営組織「ひとえん」
- ☞ 'みんなで関わりあって助けあいでも無理をせずに自分らしく生きる'をモットーに活動する
 - ・つながりチーム
 - ・あきないチーム
 - ・園芸チーム
 - ・広報・SNSチーム
 - ・企画運営チーム

【NPO法人の設立】

- ☞ ベテランの調整力と若手の実行力・センスを混ぜて構成
- ☞ 若手が参加したくなる役割、動機を設計する

若手世代にチャレンジの場を提供することに力点



みどり坂町内会 ～スカイレールタウンみどり坂(広島県広島市)～

<コミュニティの場づくり>

- 地域住民の関心を高めるため、子供を巻き込んだ取組を展開
- 小学校6年生の総合学習で毎年『みどり坂の未来について考える』をテーマとして提案してもらい、提案の中から実行可能なテーマを実際に実施
- 小学5年生による近隣の休耕田を借りての稲作事業や高齢者との交流
- 地域の中学校と連携した、夏祭り参加企画の提案・出店

<コミュニティアプリの開発>

- 関心を高めるためSNS、HPの継続的な発信
- インスタ、LINE、HP、防災情報をまとめたコミュニティアプリを開発し、地域情報を発信
- 登録者数は、1ヶ月で1,500人超



回覧板を、スマートフォンでも。回覧板・お知らせ・防災情報をまとめて配信できる地域アプリ

国土交通省「住宅団地再生推進モデル事業」

地域コミュニティアプリ
まちのね

町内会の情報を、もっと早く、もっと確実に。「まちのね」は、地域のつながりをやさしく支える新しい情報共有の仕組みです。

こんな悩みありませんか？

- 回覧板を回すのが大変
- 印刷・配布のコストと手間を減らしたい
- 災害時に情報共有できる場が欲しい
- 若い世代に届きにくい
- 地域活動をもっと知って欲しい
- 個人の連絡先を共有したくない

主な機能

- お知らせ配信 (電子回覧板)**
町内会の行事やお知らせを一斉配信。重要情報をどこからでも確認できます。
- 防災情報掲示板**
災害時の緊急情報や避難経路をすぐに住民同士で共有。地域の安心・安全を支えます。
- コミュニティチャット**
グループや個人ごとの連絡を個人の連絡先に依存せず安全に行えます。

安心のサポート体制
導入後も専用のサポート窓口にて、住民の方からのお問い合わせにも対応いたします。地域のご負担を軽減し、安心してご利用いただける体制を整えています。

専用サポート窓口
24時間受付

住民からの問い合わせもサポート
フォロー体制

地域住民の関心を高め、若い世代を巻き込む工夫

考え方：子ども・若者を「主役」にすることで、保護者→学校→高齢者→地域全体へ関心が波及する

多世代がつながる循環のしくみ



子どもが主役になる

小6総合学習「みどり坂の未来」
中学「夏プロ」で夏祭り出店



体験が多世代をつなぐ

休耕田で稲作 → 収穫米で
子ども食堂・パンづくり



世代間で支え合う

高齢者と食事・門松づくり
→ 敬老会プレゼントをお返し

この好循環が地域全体の関心を引き上げる

参加しやすい仕組みづくり

① 短時間・単発・役割限定

駄菓子屋1日店長、防災キャンプ、
イベント出店など「少しだけ」で参加OK

② 得意なことで関われる

SNS発信、広場活動、安全マップなど
多様な関わり方を用意

情報発信で活動が見える化



地域アプリ「まちなね」

1ヶ月で1,500人登録

地域情報・防災・安否確認・コミュニティ機能を一元化

地域活動を「義務」ではなく「楽しい・誇れる・少しなら関われる」ものにすることが、地域全体を巻き込む鍵

テーマ2 団地内の活動拠点や人が集まる場についての工夫

一般社団法人ニューマチヅクリシャ ～多摩ニュータウン(東京都多摩市)～

- 既存空間を再解釈し、使い方を工夫した分散的な「場」づくり
- 近隣センターを中心に、既存空間や余白（公園、空き店舗、住宅等）を活用



- 継続的な活動や関係性の蓄積、新たな出会いを生み出すため、常設の拠点として、近隣センターに飲食型複合施設「オチアウ」を整備（令和8年5月開設）
- 複数の実践者（料理研究家やアーティスト、建築家等）と、機能の組み合わせにより持続可能な運営体制を構築
 - ◆ 物理的な空間の継承に加え、人々の記憶や文化的価値の継承が課題
 - ◆ 文化的文脈を都市の中に残していくことを重視、事業継承という形での拠点づくり



テーマ2 団地内の活動拠点や人が集まる場についての工夫

一般社団法人横浜上郷ネオポリス～横浜上郷ネオポリス(神奈川県横浜市)～

➤ 開発事業者(民間)と連携した、2か所の民設コミュニティ施設の運営



野七里テラスとボランティアの皆さん



創テラスとタウンクリエイター



➤ 店舗併設のコミュニティ施設は、誰でも自由に立ち寄りくつろげる場に

→運営ボランティアが住民とのコミュニケーションを担い、地域の繋がりを創出

➤ 単独型のコミュニティ施設では、住民同士の繋がりをつくるイベント等の取組や 企業と住民の連携企画を実施

→タウンクリエイターを配置し、住民の困りごと相談に対応

テーマ2 団地内の活動拠点や人が集まる場についての工夫

一般社団法人 青葉台町会協議会 ～青葉台団地(千葉県市原市)～

➤ 空き店舗をDIYで改装し、小・中学生が集まる子どもの居場所に

R5(2023)～

イチ推し (いちほら推し活制度) ⇨ 市民生活部 地域連携推進室

青葉ノアールで社会実験継続中

団体登録→フェスタと青葉大学でポイント



ReNEWまちつく部 ～高蔵寺ニュータウン(愛知県春日井市)～

<どんな立場の人でも連携できるオープンなコミュニティ>

- オープンなSNS上のチャットグループ形式により、誰でもフラットに連携できる場を創設
 - ◆ 名簿や規約を設けないオープンなグループとし、
企業・行政・個人が連携しやすい構造
 - ◆ 企業の地域向けイベントへの協力や、行政イベントへの出店等が実現
 - ◆ 行政への相談や、企業同士の連携のハブとしても機能
- 連携そのものを今後の活動の重要テーマとして位置づけ
 - 法人化の際は事務局のみを法人とし、
誰でも参加できるグループ運営として継続予定

まちの“しかけ”づくり。



一般社団法人真駒内エリアマネジメントコア/NPO法人真駒内エリアマネジメントコネクト ～真駒内団地(北海道札幌市)～

<多様な主体との適切な連携>

- 「一般社団法人真駒内エリアマネジメントコア」を基盤に、
「NPO法人真駒内エリアマネジメントコネクト」をはじめとして
多様な主体と協力しながらまちづくりを推進
- 真駒内エリアでは、市民活動や地域活動を行う多様な活動団体が存在
- 「コネクト」が中心となり、
各団体や住民活動をつなぐネットワーク形成と連携を進めている
- 行政等の関係機関とも日頃より話し合いを重ね、
地域課題や方向性を共有しながら官民連携による持続的な取組体制を構築



NPO法人緑園都市コミュニティ協会 ～緑園都市住宅(神奈川県横浜市)～

<多様な活動体との連携>

- 行政と、緑のまちづくり活動を通じた地域課題対応
- 開発事業者(民間)と、隔月の定例会を通じ地域課題に関する認識を共有
- 大学と、卒業論文への協力やワークショップを通じた情報交換
 - 外部の視点を得られることは大きなメリット!

<今後の展開>

- 現時点では、連携の多くが情報交換の段階
- 今後は、連携を具体的な取組に発展させて地域課題の解決へつなげていく

